

“発熱のあるお子様への家庭での手当てについて”

新型コロナウイルス感染症が流行し、ご家庭の皆様は御心配の事と存じます。

体温が37.5°C以上の発熱があっても、以下の様子ですと、急いで診療機関へ受診する必要が無い場合が多いです。

- ① 活発に動いている、元気
- ② 口唇の乾燥がない、皮膚も乾燥していない。
- ③ 食欲がある
- ④ 水分の摂取ができています。＝お茶、水等、また市販の経口電解質液や経口電解質液ゼリー等（～薬局で販売しています）を摂取できている。
- ⑤ 尿量がいつもと同じ位（回数、排尿量がいつもの1/2以上ある）
- ⑥ 手足は冷たく無い。

以上の様な状態であれば、以後の水分摂取に努め、発熱があれば氷枕や氷をいれたパックで冷やしてください。（右の脇の下、鼠蹊部等）。手足は温めてください。

尚、ご自宅に解熱剤があれば～カロナール、アンヒバ坐剤等（アセトアミノフェン製剤）を御利用ください。

尚、お子さんに基礎疾患のあるかたや、以前に熱性けいれんの経験のあるかたは主治医とご相談ください。